議長ティータイム

日時：令和３年４月８日（木）午後３時～
場所：議長執務室

１　今定例会を振り返って

２月定例会が３月 30 日まででしたが、最後は大分遅くまでかかりました。会期が一日延長したという事ではありますが、副知事人事から始まり、新年度予算、ワシントン事務所についてなど議会開会前からいろいろとマスコミでもあがりましたが、その他の予算などについてもまた、大分最後まで議論になりました。結果としては、御存じのとおりという事になっておりますので、あとは皆さんのほうから聞きたい事があればお答えしていきたいと思っております。

２　質疑応答

（記者）

熊野鉱山の件について、委員会で提出に向けて今進めていらっしゃると思いますが、早ければ 14 日頃の臨時会という報道も出ていますが、そういう流れになりそうですか。

（議長）

事務局とも今いろいろ調整していますが、視察をして、例えば委員会のほうで意見書を出す出さないとかいった内容なども委員会のほうで決めております。その中でまた議会、委員会の中で日程を調整するということになっておりますので、こちらから特段この日程になるということは決めておりません。

（記者）

たしか具志堅さんは明日議会にいらっしゃると思いますが、その参考人のお話を聞いた上で委員会のほうで御判断して頂いて、議長に上がってくるようなことになるのですか。

（議長）

現場視察、それから参考人招致を受けて、あとは委員会がどうするかということを決めていくことですので、こちらからどうのこうのということは特段ございません。

（記者）

文言の調整などはありますか。

（議長）

まだ私のところには上がってきてもいませんので、今回の視察と参考人招致によっては、

文言がまた変わるかもしれません。各会派、政党の考えがうまく調整できればまとまるでしょうし、そこはそれぞれの委員会、各会派政党の調整になると思います。

（記者）
　自民党も公明党も一回防衛局のほうにお話に行かれていると思いますが、基本的にはそこはもう少し配慮してほしいというのはありますか。

（議長）
　私のところに来たら特段、私があれだこれだと言いません。私の意見を特段挟むということは特にございません。

（記者）
　見通しとしては、そこまで難しい意見書ではないとお考えですか。

（議長）
　政治の世界は何が起きるか分かりませんので、要は、私がああじゃないこうじゃないということの調整は特段今想定をしておりません。ですので、私のところに来たらもちろん全会一致だったらさっと通るし、少し話が違うとそこでどうなるかは分かりません。そこは基本的に私が知っている限りだと自民党さんも公明党さんも防衛局に要請しているということですので、後は細かい、その中でも少し温度差はあるのかもしれないし、そこをどう歩み寄るかということになると思います。
　現に、辺野古の部分になると、また各政党でスタンスが違うのでそこにもよってくるんじゃないかと思っています。

（記者）
　意見書とは別に今、参考人の業者が来ていて話は聞いていると思うのですが、完全に土砂に遺骨がかかることはないとおっしゃっていて、全く違う感じになっていますがそこはどうお考えですか。

（議長）
　この件は聞いておりません。

（記者）
　議長としてはそもそもどうなのかという、土砂を使うとか使わないという問題、どう思っていらっしゃいますか。

（議長）
　基本的に県民感情からすると、やはり遺骨が入っているということは、県民ほとんどの方がそうだと思いますが、よくは思わないという部分だと私個人的にはそう思っています。しかし、どこまで入っている入っていないかなどいろいろな意見があり、那覇空港でも使った

と言う人もいるし、私たちはその辺の実績が分からないので、業者さんが今日何とおっしゃっていたかについては私は把握しておりませんけれども。

（記者）
遺骨が入っていないとなれば南部の土砂は別に取ってもいいということですか。

（議長）
この辺が難しいところです。これを南部全体がそれとなると、私個人的には南部の土地自体が全部駄目みたいという逆の風評があるのではないかと思います。南部でお家を造っている人もいますし、そんなことを言えば財産を全て南部に持っている人もいますし、南部の土地が一緒くたに全部下がるということは、本当に大丈夫なのかと違う心配はあります。もし私が南部の出身で、例えば代々土地を、暮らしをここでやってきて、そこで遺骨があるからと言って、ここは全く使えないということまで波及するということは違う問題じゃないかと私は思います。そうなれば極端な話、沖縄は住めなくなると思います。そんなことを言ったらきりがないかもしれないです。ですのでそこがまず政治の部分でその土砂が明確に入っている入っていないによって大分また変わってくるのだと思います。

（記者）
そこは少し慎重に考えていかないといけないとういうことですか。

（議長）
人の財産でもありますし、私たち沖縄の人としては感情的には、地上戦が繰り広げられていた戦争も、来年で復帰 50 年ということで、やはりいろいろな思いがあると思います。ただ、かと言って何でもそれがこじつけられると、南部という部分でくくられると、やはり南部の方々からするといろいろな思いがあり、そこに住んでいる方々や、代々生きている人たちからするとどんな思いをするのかと、そこは少し気をつけないといけない部分だと思います。

（記者）
熊野鉱山は魂魄の塔から数分の位置の関係になるかと思いますが、どこからどこまでだったら遺骨が出てこないような土地であるかというのは線引きが非常に難しいです。第二の熊野鉱山みたいなものが出てきたらどうするのか、そういう話になります。

（議長）
それこそその土砂を使わないでくれという方々もいますし、また県知事も明確に絶対駄目とは言っていませんし、いろいろな意見があります。

（記者）
確かにそうですね。行政的な手続はどうなるのでしょうか。

（議長）

そこは知事の感情はどうなのとかいう話だけでできるかというと、そうはできないと思います。ですのでどこまでという線引きとなると、そこはまさに行政の手続上の部分で、しかも人の財産になります。ひとつ間違えると訴えられる可能性もありますし、だから県としてもとても慎重だと思います。

ではよろしいでしょうか。今日はどうもありがとうございました。